

白老の通所授産施設「フロンティア」

鶏卵ケツコーな人気

【白老】食の安全に対する関心の高まりを追い風に、障害者の通所授産施設「フロンティア」(佐藤春光施設長)が一年半前から始めた鶏卵の販売が順調に伸びている。おからなどの自然飼料を与え、金網に入れないのびのびと飼育した鶏の卵は「味が濃い」と評判でリピーターを増やしている。(佐野智子)

町内の社会福祉法人「ホ 小屋」鶏を地面に放す「平一平」が運営する同施設は「飼い」で百羽の飼育を始め二〇〇六年夏に、通所者のた。

働く場を確保しようと竹浦 当初は鶏舎のフンのにおい地区に養鶏場を開設。木造 いに悩まされたが、昨春秋



EM菌を混合した敷きもみの上を自在に動き回る鶏たち

平飼いの300羽 EM菌で清潔 「味濃い」1日200個販売

に壮瞥町の自然牧場「たつかーむ」を参考に、近隣の農家からもらったもみ殻に微生物の働きで排せつ物を分解する有用微生物群(EM菌)を混ぜて地面に敷く工夫をしたところ、鶏舎からのおいが消え、「鶏舎が清潔に保てるようになった」(佐藤施設長)。

また、エサにも工夫を重ね、苫小牧の豆腐工場のおからや、漬物製造会社のダイコンの葉などを無償で譲り受け、飼料に混ぜている。工夫を重ねて品質が向上した卵は「味が濃くて弾力のある」と好評で、施設直販で一個三十五円、町内配達同四十円(十個以上)と高めの価格設定にもかかわらず、町内の一般家庭五十戸が定期購入するなど、開設時から三倍の一日約二百個が売れるようになった。

好調な売れ行きに同施設は昨年十一月と今年一月に親鶏百羽ずつを追加し、さらに今年中には五百羽に増やす方針だ。

佐藤施設長は「飲食店や宿泊施設など大口の販路を確保し、売り上げを通所者に還元できれば」と話している。問い合わせは同施設

0144・833・3537へ。

問い合わせ先
北海道白老フロンティア
TEL : 0144-83-3537



白老・竹浦中 来月札幌で販売実習

地元食材の魅力教えて

【白老】六月に札幌で宿泊研修を行う町立竹浦中の生徒が、白老牛や鶏卵など地元食材を札幌のホテルや物産店へ売り込む実習をする。五月十三、十五日には地場産品のセールストークに役立てようと、生産者を学校に招き取材した。同校は「取り組みを通じ白老の魅力を知り、まちの将来像も考えてもらいたい」と話している。(門馬羊次)

牛肉や鶏卵

生産者招き取材

宿泊研修は六月二十五日から一泊二日で行われ二年生十五人全員が参加。ホテルポール

観光客に北海道や白老のイメージをアンケート調査する。

職員が来校。鶏に野菜やおからを与えることで健康な卵の生産ができるなどと説明し、生徒たちは「どんな料理に向いているか」などと積極的に質問した。

現二年生は昨年、白老牛やシイタケの生産現場で体験学習するなど、郷土の食への理解を深める授業を重ねてきた。来年は東北地方への修学旅行で観光地

洋菓子店で地元食材をPR。帰りに新千歳空港に立ち寄り、道外の

日、養鶏場を運営する町萩野の通所授産施設「フロンティア」の

生徒の人見友唯さん

をまわり観光産業について学んだり、白老の新たな食ブランドを発信する方法を考える。